



愛は光
この光は闇の世を照らす

回勅『神は愛』

四旬節「愛の献金」趣意書

教会は四旬節に、祈り、節制、愛の業に励むよう呼びかけます。四旬節「愛の献金」は、愛の業の実践であるのと同時に、節制によって献金し、献金を通して困難にある人のために祈るという、三つの業が一つの行いになったものだと言うことができます。日本の教会では、カリタスジャパンが司教団から委任され、四旬節献金の呼びかけと援助の実務を行っています。昨年は、約5700万円の祈りのこもった献金が寄せられ、国内を含む世界各地で支援を必要としている人々のための活動が行われました。皆様とともに四旬節の業に取り組むことが出来ることに感謝いたします。

昨年、灰の水曜日の6日前、ロシアはウクライナに対して大規模軍事侵攻を開始しました。2022年にあって大国が隣国に軍事侵攻するという現実にはショックを受けた人は多くおられたかと思います。しかし、毎日ニュースで惨禍が報じられる中、未だに終わりが見えないこの戦争にわたしたちの心は次第に鈍感になってきていないでしょうか。また、ミャンマーなど、紛争が続く国々で、今このとき、理不尽で先の見えないいのちの危機にさらされている人々が大勢おられます。戦火によって灰と化した地にあっ

2022 年 四旬節献金総額

Amount of total 2022 Lenten Collection

56,963,801 円

主な援助先

(円/Yen)

モンゴル Mongolia 1,734,000

カリタスモンゴル組織強化支援

キルギス Kyrgyzstan 1,359,100

カリタスキルギス組織強化支援

南部アフリカ Southern Africa 2,578,200

ナミビア・エスワティニ・ボツワナ・南アフリカにおける組織強化支援

エチオピア Ethiopia 3,402,351

気候変動適応・社会経済力強化プロジェクト

エルサレム Jerusalem 1,424,300

紛争後のコミュニティ能力強化支援

パキスタン Pakistan 3,468,000

強制立ち退き被災世帯の生活再建と教育支援

パキスタン Pakistan 1,617,979

パンジャブにおける食料緊急支援

て、灰の水曜日を迎える人々の心に寄り添いたいと思います。

教皇フランシスコは、去年の「貧しい人のための世界祈願日」メッセージで次のように語りました。「いのちが死に打ち勝ち、尊厳が不正義から取り戻されることを望むのなら、進むべきはあのかたの歩んだ道です。イエス・キリストの貧しさに倣い、愛のためにいのちを分かち合い、自分という存在であるパンを、兄弟姉妹とともに、しかもまずもっとも虐げられている人、必要なものに事欠く人とともに裂くことで、平等を生み出し、貧しい人を困窮から金持ちを虚栄から——どちらにも希望はありません——救うことです。」わたしたちの四旬節の歩みの上に神の導きが豊かにありますように。

2023 年 2 月 22 日 灰の水曜日
カリタスジャパン担当司教 パウロ 成井大介

国際カリタス Caritas Internationalis

緊急支援要請 (21 件)

29,783,700

(2022 年 12 月 15 日現在)

四旬節献金では、国内外で社会から疎外され、困難な生活を送っている人たちが自分たちの力で生きていくことができるための支援を行っています。

Your Lenten contribution is essential not only for emergency disaster relief, but also for development assistance here and abroad.

Caritas Japan's activities are supported by your donations throughout the year, and one-third of that annual support comes through this Lenten collection.

今年の四旬節小冊子は、四旬節「愛の献金」趣意書、2022 年度四旬節献金報告、カリタスジャパン担当司教メッセージ(四旬節福音箇所カレンダー)、2023 年 4 月から 2024 年 3 月までのカレンダーとなっています。カレンダーの使用写真は、カリタスの支援先関連の写真(視察写真含む)を用いており、皆様からの献金による援助先ならびにカリタスの活動の紹介となっています。

In this year's Lenten Booklet outlines the meaning of the theme, Lenten donation report of the year 2022 and the message of president, Caritas Japan. It is in the form of Calendar that starts from April of 2023 to March 2024. The calendar highlights pictures that introduce Caritas related activities of support and where your donation goes.

四旬節をよりよく過ごすために

「教会の愛のわざ」

カリタスジャパン担当司教
成井大介

2022年12月31日、名誉教皇ベネディクト十六世はこの世での旅路を終え、神のもとへと旅立たれました。教皇に選出された年のクリスマスに署名されたベネディクト十六世の最初の回勅は、神の愛とその実践について教える『神は愛』です。四旬節に私たちは祈り、節制、愛のわざに取り組みますが、この回勅はまさに、現代社会において愛のわざに取り組むということについてその道筋を示してくれます。そこで、ここではベネディクト十六世が『神は愛』を通して教える愛のわざについて、カリタスの活動に触れながら考えてみたいと思います。

神から愛され、愛が芽生える

2部からなるこの比較的短い回勅は、まず第1部で、神が歴史を通じて人間に与えられる愛について教えています。何よりもまず、神が人間を愛

マタイ Mt 5・38-48

マルコ Mk 9・14-29

マルコ Mk 9・30-37

灰の水曜日 (大斎・小斎)

Ash Wednesday

四旬節愛の献金 (四旬節中)

Lenten Love Collection (During Lent)

マタイ Mt 6・1-6, 16-18

ルカ Lk 9・22-25

マタイ Mt 9・14-15

ルカ Lk 5・27-32

2/19日
Sun

20月
Mon

21火
Tue

22水
Wed

天皇誕生日

23木
Thu

24金
Fri

25土
Sat

していること、それがキリストによって示されたこと、その経験の故に、人は神と人を愛することができるということが述べられます。

聖書の愛の歴史の中で、神はわたしたちのところにきて、わたしたちの心をとらえようと努めます。そのために神は最後の晩餐を行い、十字架上で心を刺し貫かれ、復活の後に現れ、さまざまな偉大なわざを行いました。使徒たちの活動を通して示された偉大なわざによって、神は初代教会の歩みを導きました。その後の教会の歴史においても、主は姿を消したわけではありません。主を映し出す人々の内に、主のことばの内に、秘跡の内に、またとくに聖体の内に、主はつねに新たなしかたでわたしたちと出会います。教会の典礼の内に、教会の祈りの内に、信者の生きた共同体の内に、わたしたちは神の愛を経験します。わたしたちはそこに神がともにいてくださることを感じます。こうしてわたしたちは、自分たちの日常生活の中に神がともにいてくださることを知るようになります。まず神がわたしたちを愛しました。そして神はわたしたちを愛し続けます。だから、わたしたちもまた、この愛にこたえることができます。神は、わたしたちがもちえないような感情を抱くことを求めはしません。神はわたしたちを愛し、わたしたちに神の愛を見させ、また感じさせます。このように神が「まず愛する」からこそ、わたしたちの内にこの愛へのこたえが芽生えるのです。(17)

四旬節第 1 主日
First Sunday of Lent

マタイ Mt 4・1-11

26日
Sun

マタイ Mt 25・31-46

27月
Mon

マタイ Mt 6・7-15

28火
Tue

ルカ Lk 11・29-32

3/
1 水
Wed

マタイ Mt 7・7-12

2 木
Thu

マタイ Mt 5・20-26

3 金
Fri

マタイ Mt 5・43-48

4 土
Sat

2008 年に、私はカリタスモンゴルを訪問しました。モンゴルには、今も遊牧生活を続ける家族が多くいます。何百頭もの羊を少年が馬に乗って水場まで連れて行く様子は、自然と調和した素晴らしいものでした。ところがまれに大寒波がやってくると、一夜にして羊がすべて死んでしまうのです。遊牧民にとっては、家畜が財産です。すべての財産を失った遊牧家族は、テントをたたみ、都市部に移動して仕事を探しますが、なかなか見つかりません。結局テントを売り、冬の間はマンホールから温水パイプが走る地下に潜り、そこで生活をするようになるのです。しかし、劣悪な環境での生活は長く続かず、父が去り、母が去り、子どもが取り残されます。こうした子どもたちのことをマンホールチルドレンと呼ぶのですが、あるカトリック系の児童養護施設は、マンホールチルドレンの中でも特に精神的、肉体的に厳しい状態の子どもたちを受け入れていました。驚いたのは、マンホールから出てきたばかりの子どもたちには、一切表情が無いということです。話しかけても、絵本を読んでも、デジカメで写真を撮って見せても、完全に無表情のままで、何に対しても反応しません。親に見捨てられ、劣悪な環境の地下で育ってきた、笑うことも、泣くことも無い子どもたちを、施設のお母さん役の職員たちが愛情を持って育てます。食事はスプーンを使って食べる、おしっこはトイレでする、というようなことから教えなければなりません。職員は根気強く教え、子どもがきちんとできた

マタイ Mt 17・1-9

ルカ Lk 6・36-38

マタイ Mt 23・1-12

マタイ Mt 20・17-28

ルカ Lk 16・19-31

性虐待被害者のための祈りと償いの日
Day of prayer and penance for the
victims of sexual abuses

マタイ Mt 21・33-43, 45-46

ルカ Lk 15・1-3, 11-32

6 月
Mon

7 火
Tue

8 水
Wed

9 木
Thu

10 金
Fri

11 土
Sat

ら大喜びで抱きしめ、褒めます。それを何ヶ月も続けるうちに、だんだん笑ったり、怒ったり、泣いたり、すねたりできるようになり、そして自分の後に来た子の世話をできるようになるのです。人間は、愛を受けてこそ成長できる、愛を受けてこそ人を愛せる、ということを痛切に感じた時でした。

「御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです」(一ヨハネの手紙3.1)。四旬節にあってわたしたちは、まず何よりも、神が自分を愛してくださっていることをしっかりと受け止め、祈りと生活の中でふり返りたいと思います。

神の愛への応答としての愛のわざ

『神は愛』第2部では、教会が行う愛のわざについて述べられています。ベネディクト十六世は、教会の本質が「神のこトバを告げ知らせること(宣教)」、「秘跡を祝うこと(典礼)」、「愛の奉仕を行うこと(奉仕)」の三つの務めによって表される(25)と教えます。愛の奉仕は、余裕があったらやるとか、気が向けばやるとか、興味がある人がやればいいというようなものではなく、「それは、教会の本質の一部をなし、また、欠くことのできない教会の本質の表現」(25)なのです。

四旬節第3主日 Third Sunday of Lent

ヨハネ Jn 4・5-42
△ 4・5-15, 19b-26, 39a, 40-42

12日
Sun

ルカ Lk 4・24-30

13月
Mon

マタイ Mt 18・21-35

14火
Tue

マタイ Mt 5・17-19

15水
Wed

ルカ Lk 11・14-23

16木
Thu

ヨハネ Jn 19・25-27

17金
Fri

ルカ Lk 18・9-14

18土
Sat

ベネディクト十六世は、この愛の奉仕が一人ひとりの信者の責務であると同時に、あらゆる次元における教会共同体全体の責務であると述べた上で（20）、教会が行う愛のわざの本質的な要素として、31 項で次の三つの点を挙げています。

- ・よいサマリア人のたとえに示された模範に倣い、目の前のニーズに応えること。奉仕活動には専門的な能力も必要だが、何よりも人間性を大切にし、心のこもった配慮を持って取り組むこと。
- ・愛の活動を、政党やイデオロギーから独立して行うこと。「キリスト教の愛の活動は、世界をイデオロギーによって変革するための手段でもなければ、現世的な戦略に奉仕するものでもありません。それは、人間がつねに必要としている愛を、今ここに存在させるための手段なのです」
- ・愛の活動を、「改宗の強制」のための手段として行わないこと。「教会の名で愛を実践する人は、決して教会の信仰を人に強制しようとしてはなりません。純粹かつ寛大なしかたで示される愛は、最高の意味で神のあかしとなることをわきまえるべきです」

2014 年、西アフリカでエボラ出血熱が大流行しました。感染した人の

四旬節第 4 主日
Fourth Sunday of Lent

ヨハネ Jn 9・1-41
△ 9・1, 6-9, 13-17, 34-38

聖ヨセフ
Saint Joseph

マタイ Mt 1-16, 18-21, 24a
△ ルカ Lk 2・41-51a

3/ 19 日
Sun

20 月
Mon

春分の日

21 火
Tue

ヨハネ Jn 5・1-3a, 5-16

22 水
Wed

ヨハネ Jn 5・17-30

23 木
Thu

ヨハネ Jn 5・31-47

24 金
Fri

ヨハネ Jn 7・1-2, 10, 25-30

神のお告げ
The Annunciation of the Lord

ルカ Lk 1・26-38

25 土
Sat

体液などとの接触で感染し、ウイルスの種類によっては、致死率は80%から90%にもなるという恐ろしい病気です。その頃私は国際カリタスの会議で、現地の様子を聞く機会がありました。感染のスピードが早く、致死率が高いため、多くの人が亡くなっていること。医療従事者も感染し、多くの病院やクリニックが閉鎖されていること。病気に対する理解が無いことと、病者や死者に触れることの多い伝統的な対応の仕方や儀式が重くなって、感染が広がっていることなどが報告されました。

こうした状況に対応するため、国際的な医療 NGO がやってきて治療や予防、啓発、埋葬などの活動を行いました。カトリック教会も元々クリニックを運営していますし、地域の教会は体の調子が悪いときに相談に行く場でもありますので、同じような活動を行いました。現地カリタスは、衛生環境を整えるための物資や食糧の配布、ラジオ放送を利用した啓発など、幅広い活動に取り組みました。会議で国際カリタスのスタッフが特に強調していたのは、1) 教会が行う活動は、物資の提供や医療、啓発だけでなく、家族を亡くした人と一緒に泣き、祈り、寄り添い、ともに歩みを進めるものだということ、そして、2) 当初の活動計画には入っていなかったようなこと、例えば親を亡くした子どもが大勢いるので、臨時の児童保護施設を運営するというようなことを、たとえ予算に入っていなくても教会の人々が何とか協力して実行することの2点でした。

四旬節第5主日 Fifth Sunday of Lent

ヨハネ Jn 11・1-45
△ 11・3-7, 17, 20-27, 33b-45

26日
Sun

ヨハネ Jn 8・1-11

27月
Mon

ヨハネ Jn 8・21-30

28火
Tue

ヨハネ Jn 8・31-42

29水
Wed

ヨハネ Jn 8・51-59

30木
Thu

ヨハネ Jn 10・31-42

31金
Fri

ヨハネ Jn 11・45-56

4/
1土
Sat

教会で祈るのは当然ですし、元々そこに共同体があるのですから、ともに歩むのも当たり前のことです。ここで言いたいのは、人間のいのちというものは肉体とそれを維持するのに必要な物質だけではなく、互いを大切にし、故人をともに悼み、悲しみを分かち合い、ともに神に祈るような愛の行い、社会的、精神的、霊的な側面も含んでこそ生き生きとしてくるということです。教会の奉仕活動は、人のいのちを全体的、包括的に捉え、大切にします。まさに、教会の奉仕活動は「人間がつねに必要としている愛を、今ここに存在させる」のです。

キリストとの生きた関係

昨年の灰の水曜日の6日前、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻を始めました。また、ミャンマーや聖地など、世界には紛争が続く地域が多くあります。戦火の中、灰燼（かいじん）にまみれた中で迎える灰の水曜日。地下に隠れ、暗い中ろうそくの火を灯す御復活。神はどのような思いでわたしたちとともにおられるでしょうか。

ベネディクト十六世は『神は愛』36項で、直面する問題が大きすぎるときにこそ、キリストとの生きた関係を持つよう招いています。すべての問題を解決しようとしたり、逆に何もしないでいるという誘惑に陥ったりすることのないように、そしてあきらめてしまわないように、「キリスト

受難の主日（枝の主日）
Palm Sunday

マタイ Mt 27・11-54

ヨハネ Jn 12・1-11

ヨハネ Jn 13・21-33, 36-38

マタイ Mt 26・14-25

聖木曜日（主の晩さん）
Holy Thursday

ヨハネ Jn 13・1-15

聖金曜日（主の受難）（大斎・小斎）
Good Friday

聖地のための献金 Good Friday
collection for Holy Land
ヨハネ Jn 18・1～19・42

聖土曜日／復活徹夜祭
Holy Saturday

マタイ Mt 28・1-10

4/ 2 日
Sun

3 月
Mon

4 火
Tue

5 水
Wed

6 木
Thu

7 金
Fri

8 土
Sat

からつねに新たな力を得るための方法として、具体的に祈ることが、ここで何よりも必要」だと教えます。祈りは、自分が神ではなく、神の計画を理解できるような者でもないことを認識させます。神のみ旨に自分をゆだねつつ、み旨のために行動する勇気を与えます。そして、「たとえわたしたちがいつまでも神の沈黙を理解できなくても、神はわたしたちの父であり、わたしたちを愛してくださっている」(38)と確信させるのです。

最後に、第2部の終わりに書かれているベネディクト十六世のメッセージを紹介します。

「わたしたちは愛を実践することができます。わたしたちは神の像として造られているからです。愛を生き、そこから、神の光を世にもたらししてください。それが、わたしがこの回勅を通じて、お願いしたいことなのです。」

この四旬節が皆様にとって神の愛に満ちた豊かなときとなるよう、お祈りいたします。

2023 年 1 月 16 日

※教皇フランシスコの四旬節メッセージは、カトリック中央協議会のウェブサイトをご覧ください。The Lenten Message of Pope Francis is available for download from CBCJ website.
<https://www.cbcj.catholic.jp/category/document/docpope/msglent/>

復活の主日 Easter Sunday of the
Resurrection of the Lord

ヨハネ Jn 20・1-9

9 日
Sun

マタイ Mt 28・8-15

10 月
Mon

ヨハネ Jn 20・11-18

11 火
Tue

ルカ Lk 24・13-35

12 水
Wed

ルカ Lk 24・35-48

13 木
Thu

ヨハネ Jn 21・1-14

14 金
Fri

マルコ Mk 16・9-15

15 土
Sat

見よ、兄弟が共に座っている。
なんとという恵み、なんとという喜び。



How good and how pleasant it is, when brothers dwell together as one!

2023 4 April

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24	25	26	27	28	29 昭和の日

2023 5 May

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

写真:チャイルドスペース（ポーランド・プシェミスル駅）でのウクライナから避難してきた子どもたち／ A child space hosted by Caritas Poland at Przemysl train station (Poland)

© Philipp Spalek/Caritas Germany 聖句：詩篇 133：1／ Psalms 133・1

求めなさい。そうすれば、
与えられる。探しなさい。
そうすれば、見つかる。
門をたたきなさい。
そうすれば、開かれる。



Ask and it will be given to you; seek and you will find; knock and the door will be opened to you.

2023 6 June

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2023 7 July

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31 海の日	25	26	27	28	29

写真：移住した都会のセンターで自分たちの文化や伝統を学ぶ先住民の子どもたち（ブラジル）／ They are studying in a small locally-run centre for indigenous children to learn about their own culture and traditions. (Cidade de Deus (City of God) , Brazil) © Caritas Internationalis 聖句：マタイによる福音書 7：7／ Matthew 7：7

ひとりよりもふたりが良い。
共に労苦すれば、その報いは良い。
倒れれば、ひとりがその友を助け起こす。
倒れても起こしてくれる友のない人は
不幸だ。



Two are better than one: they get a good wage for their labor. If the one falls, the other will lift up his companion. Woe to the solitary man! For if he should fall, he has no one to lift him up.

2023 8 August

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

山の日

2023 9 September

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

敬老の日

秋分の日

写真：南スーダンの難民キャンプで遊ぶ子どもたち／Boys roll bicycle wheels through a camp for than 5,000 displaced people in Riimenze, in South Sudan's Gbudwe State, what was formerly Western Equatoria. (South Sudan) © Caritas Internationalis 聖句：コヘレトの言葉 4：9-10／Ecclesiastes 4：9-10



寄留者や孤児の権利を
ゆがめてはならない。

You shall not violate the rights of the alien or of the orphan.

2023 10 October

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
スポーツの日						
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2023 11 November

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
			1	2	3	4
					文化の日	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
				勤労感謝の日		
26	27	28	29	30		

写真：ロヒンギャ難民キャンプでの演劇公演（バングラデシュ）／ Theater performance in the Child friendly space (Bangladesh) © Ismail Ferdous for Catholic Relief Services (Bangladesh) 聖句：申命記 24：17／ Deuteronomy 24：17

天使たちが離れて天に
去ったとき、羊飼いたち
は、「さあ、ベツレヘム
へ行こう。主が知らせて
くださったその出来事を
見ようではないか」と話
し合った。



When the angels went away from them to heaven, the shepherds said to one another, "Let us go, then, to Bethlehem to see this thing that has taken place, which the Lord has made known to us."

2023 12 December

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

2024 1 January

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
	1 元 日	2	3	4	5	6
7	8 成人の日	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

写真：異常気象（ゾド）による降雪に晒されているモンゴルの遊牧民／Outside the home of nomadic herders in Uvs Province, Mongolia. The region is currently at risk of dzud.
(Mongolia) © Orlinsky/Caritas Internationalis 聖句：ルカによる福音書 2：15／Luke 2・15

わたしたちには、支えてくれる、
助けてくれる、そして前を見るよう
互いに助け合う共同体が必要です。
夢は、ともに編むのです。



We need a community that supports and helps us, in which we can help one another to keep looking ahead. Dreams, on the other hand, are built together.

2024 2 February

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
	建国記念の日		灰の水曜日			
18	19	20	21	22	23	24
					天皇誕生日	
25	26	27	28	29		

2024 3 March

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
			春分の日			
24 31	25	26	27	28	29	30

写真：手のひらに、雪のハートをのせる子ども（ハンガリー）／A child puts a snow heart in the palm of her hand (Hungary) © Caritas Hungarica

言葉：教皇フランシスコ回勅『兄弟の皆さん』 § 8 ／ Encyclical Letter FRATELLI TUTTI of The Holy Father Francis on fraternity and social friendship § 8

事前に当協議会事務局に連絡することを条件に、通常の印刷物を読めない、視覚障がい者その他の人のために、録音または拡大による複製を許諾する。ただし、営利を目的とするものは除く。なお、点字による複製は著作権法第37条第1項によりいっさい自由である。

この小冊子は点訳・音訳の作成をロゴス点字図書館にお願いしています。2010年1月1日より著作権法が改正され、これまで視覚障がい者のみに貸し出されていた点字図書館の録音図書（CD）が高齢、病気などの理由で活字の本を読むことが困難な人にも貸し出されることになりました。ご希望の方はロゴス点字図書館（電話：03-5632-4428）までお問い合わせ下さい。

四旬節キャンペーン小冊子 2023 年

2023 年 2 月 22 日 発行 © カトリック中央協議会 2023 年

編集 カリタスジャパン

発行 カトリック中央協議会

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10

日本カトリック会館内 電話 03-5632-4411

カリタスジャパン 電話 03-5632-4439（直通） FAX 03-5632-4464

E-mail info@caritas.jp URL <https://www.caritas.jp/>

印刷 株式会社 双文社印刷

聖句：日本聖書協会『新共同訳』 Biblical Quotations: “New American Bible (Revised Edition)” © 2019-2020 USCCB

表紙写真：キャンドルを灯す参加者（カリタスドイツ「100万の星」キャンペーンにて）／Cover Photo: A participant lighting candles at international nationwide solidarity action #OneMillionStars © Ingo Günther/Caritas International